

175

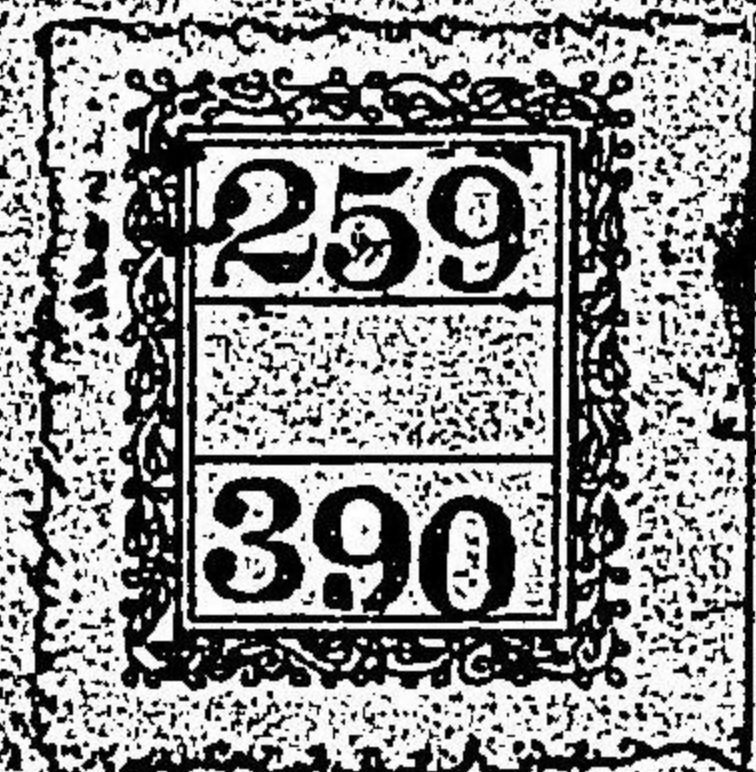
THE  
CONDITIONS OF A REVIVAL

BY  
J. D. DAVIS.

信  
仰  
の  
復  
興

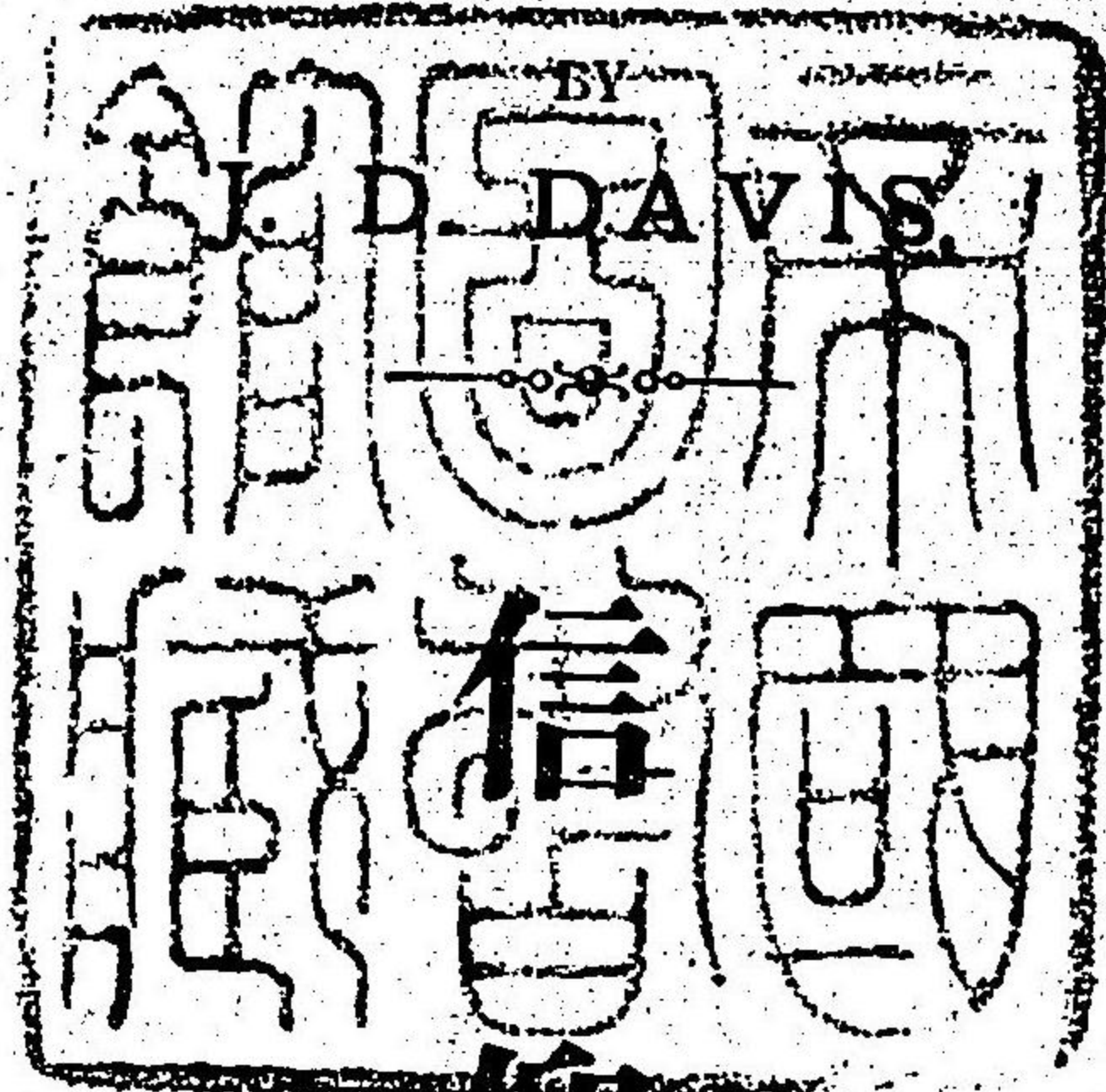
ゼー、デー、デビス博士著

東京  
警  
醒  
社  
書  
店



特49  
24

THE  
CONDITIONS OF A REVIVAL



ゼー・デー・デビス博士著

仰  
の  
復  
興

東京  
警  
醒  
社  
書  
店

明治  
42 6 22  
内交

# 信仰の復興

デビンス博士著

信仰復興の條件を考ふるにあたり、先づ我儕の心に明かにすべきことは「リバイバル」の眞意義である。「リバイバル」は単に智若くは情の一时的興奮でない、眞正の「リバイバル」は更により深きものにて其動力は神の聖靈である、基督信徒の健全なる状態は常に聖靈に満され聖靈によりて基督に一致し以て我儕のうちに充實する基督の生命と愛と喜を我儕の周圍にある人々の心魂と生涯にあふれ

しむるにある。

イエス立て呼り曰けるは「人もし渴かば我に來りて飲め、我を信する者は聖書に録し、如く其腹より活る水川の如に流出べし、如此いへるは彼を信する者の受んこする靈を指るなり、蓋イエス未だ榮を受ざるに因て靈未だ降らざればなり」(約翰傳七〇卅七―卅九、我儕は何故舊約時代に於てよりも新約時代即ち基督の死、復活、及び昇天以後に至りて凡ての信者がより多く聖靈に滿されしかを悟るここ能はず、雖もかくの如く聖靈を與へんこの明確なる主の聖約と其約束を成就せられし事實とは寸毫も疑ふことを得ない。神の方面に於ては罪人の爲になされしキリストの大なる働即ち其死、復活及

び昇天と信徒に滿足るほと聖靈を與へらるゝこととの間には極めて親密なる活關係がある、基督宣はく「我を信する者は我行ところの事を行ん、且此より大なる事を行へし、蓋われ我父へ往ばなり」(約十四章十二節)「われ父に求めん、父必ず別に慰る者を爾曹に賜ひて窮なく爾曹と偕に在らしむべし」(全上十六節)「また全十六章七節に曰く、「我真を爾曹に告ん我往は爾曹の益なり、若ゆかすは訓慰師なんちらに來らじ若往は彼を爾曹に遣らん」と、而して使徒行傳二章卅二、卅三節には「既に神はイエスを甦らせ給へり、我儕は皆その證人なり、是故に彼は既に神の右に舉られ約束の聖靈を父より受て今なんちらが見どころの者を注げり」といへり。

人の方面に於ては基督自ら其以前未だ曾て示現せられしことなき  
 人格的愛の天父、靈的生命、靈魂不滅の大なる事實、及び我儕と偕  
 に在す活る訓慰師、朋友、指導者なる聖靈を受べきことを明かに告  
 げ、而して基督は其堅き聖約により信者をして此大なる恩恵と神容  
 を望み、求め、且心を開きて受入しめたまへり。

基督信徒の靈的生命はあるひは聖靈の内住又は基督我儕のうち  
 我儕基督のうちにある結果なりと語らる。神の靈、聖靈、基督の靈  
 なる文字は新約書中屢互ひに代用せられてある、約翰傳十四章に於  
 て同じ事情の下に繰返されたる基督の三重の聖約を見る、即ち基督  
 又は神に對する愛及彼の誠を守ることにつき録して曰く「若んち

ら我を愛するならば我誠を守れ、われ父に求めん父必ず別に慰る者  
 を爾曹に賜て窮なく爾曹と偕に在しむべし此は即ち眞理の靈なり、  
 世これを接ること能はず、蓋これを見ず且知らざるに因る、されど  
 爾曹は之を識る、そは彼なんぢらと偕に在り且爾曹の衷に在ばなり」  
 而して主は直に「我なんぢを捨て、孤子とせず再なんぢらに就らん  
 と附言し、なほ全廿一節に同じ二の條件を以て宣はく、「我誠を有ち  
 て之を守る者は即ち我を愛するなり、我を愛する者は我父に愛せら  
 る我も亦これを愛して彼に自己を示すべし」と而して三度目には(廿  
 三節)「若人われを愛せば、我言を守ん、且わが父は之を愛せん、我  
 儕來りて彼と偕に住へし」と宣ふておる、なほ羅馬書第八章九節より

十五節の驚くべき聖句を研究すると、基督信徒の中に住たまふ聖靈は「基督の靈」、また「神の靈」(九節)汝のうちにある基督(十節)、死より

耶蘇を甦らせし者の靈(十一節)、神の靈(十四節)といはれてある。

使徒パウロは其書翰中に信徒は聖靈に満され聖靈と共に活くべきことを高調すると同時に殆んど八十回程基督信徒たる者は基督の中にあり基督また彼等の中にあるべきことを説ておる。基督信徒は聖靈によりて基督と一致すべきものたることは種々の方法と様々の比喩を以て言あらはされてある。我儕は基督の中に撰ばれ基督の中に造られし者、基督は新郎信徒は其新婦、基督は首信徒は其體、基督は基礎信徒は其家、基督は葡萄樹信徒は其枝、基督は牧羊者信徒は

其羊である。我儕は基督と共に十字架に死し、基督と共に復活し、

また彼と共に昇天すべきものである。(加拉太書二〇廿、哥羅西三〇

一、以弗所二〇五)此一致の結果もまた多くの方法を以てあらはされておる。我儕は基督と一致することによりて神の子となり、基督と共に偕に天父の國に於て凡ての榮光と富を嗣ぐべきものである。(羅馬書八〇十七)我儕は基督の榮にあづかり其喜に入り彼の愛と彼の永生と彼の永久の家庭を継嗣ぎ、かくて基督は我儕の内に住み、われらの生命となり、我儕の力となり、また我儕の導となりたまふのである。

此内住の靈もまた種々に言あらはされてある。例へば彼は信徒の

爲に智慧の靈、愛の靈、潔の靈、信仰の靈、榮の靈、喜の靈、望の靈となりたまふといつてある、此問題即ち基督我儕と偕なりたまふ問題は予が聖書研究中最も興味を有する豊富なる問題にて基督は信徒の外にある中保者にして聖靈は信徒の内にある擁護者である、基督の約束により聖靈は與へられ聖靈の働によりて我儕は心を開き活る基督を受け己を彼に献げ得るのである。

以上述來りし如く基督に一致し、聖靈に満され導かれ用ゐらるゝ生涯こそ眞に基督信徒の健全なる生涯である、「ペンテコステ」の大「リバイバル」後長く基督信徒は聖靈に満された、彼等は屢々聖靈に満され其大なる感動を受けたのである、使徒行傳は聖靈の活歴史といつてもよい。

近世の諸教會中「リバイバル」を要せない處の者がある、「モレビヤン」教會の如き其一といつてよい、「モレビヤン」教會は今より殆んど二百年前迫害の爲に追放せられし一小團隊にして我儕は其教會内に未だ曾て「リバイバル」の起りしを聞かない、彼等は常に活動状態に在つた、内國教會の五十分の一は宣教師として世界の最も困難なる地に往き、或時限のうち内國教會々員の三倍を基督に導いた、目下其傳道地に於る基督信徒の數は殆んど内國諸教會の會員數と同である。

然れども是を以て基督教會全体の歴史に當餽ることは出來ない、

教會は幾度となく冷却し、形式に流れ、靈力を失ひ、世に俗化する  
ところがある、而して「リバイバル」は其生命を復活し教會を死より  
救はんが爲に起るのである、基督教會史は殆んど信仰復興の歴史と  
いつてもよからふと思ふ、アシンのフランスは十三世紀の頃歐洲  
に一大「リバイバル」を起し、タウラーは十四世紀に同様の「リバ  
イバル」を起し、而してルーテルの宗教改革は基督教會の一大「リ  
バイバル」にして其勢力と感化は強く羅馬教會にまで及んだのであ  
る。

降て十八世紀の第二第三時期に始まりし一大覺醒は英國、蘇國、  
米國に汎濫し、殆んど四十年間繼續し、大英國及び亞米利加の歴史

を一變した、然れども三十年後に至り佛國に於ける七年間の革命戰  
争と不信仰の結果との影響を蒙り、米國の諸教會は甚だ冷淡にして  
不活潑の状態を呈した、此時に當り「プリンストン」大學には唯一人  
の基督教徒ありしのみ、メイン洲の「ボードイン」大學には唯一人  
「エール」大學には僅に三四人の信徒ありしが十九世紀の初に至り聖  
靈の力ある活動起り全國民を變化した、唯物説と無神論とは破棄せ  
られ、諸大學は基督教勢力の中心となり、爾後今日に至るまで其位  
置を持續し來つておる、廿五年間續きし此「リバイバル」の間に毎  
週一回の祈禱會は開かれ今日に至るまで實行されつゝある、日曜學校  
も開始せられ、内外の大傳道會社も組織せられ、聖書及び雜誌會社



も設立せられた。殆んど三十の神學校は起りジヤドソジ、ライス、ニユーエル、ノット、ホール其他の第一外國宣教師は此「リバイバル」中に悔改したのである。

「リバイバル」は教會に必要なものにしてはく教會の一大原動力となり、其歴史を變化し主耶蘇基督の王國を擴張するに預つて力あるものである。此等の「リバイバル」は必ず多少教會の生命と勢力とを回復し基督信徒をして聖靈に満ちて活動せしむるものである。是最も緊要なるものにて若し基督信徒の中に起らず又新入會者に靈力と生命を與へ得ざる「リバイバル」ありとせばそれは全く失敗の「リバイバル」である。冷淡虚儀不活潑の教會に受入れし新悔改者

は決して強健にして善き果を結ぶこと能はぬのみか此の如き信徒の數が増加するほど教會はより弱き者となるや明かである。これ四年以前にウエールズに起りたる「リバイバル」の一弱點であつた。該地の或る教會は未だ生命を有せず且つ温かなる靈的境遇に新しき信者を歓迎し以て彼等を訓練し彼等をして働かしむるの準備が出来てゐなかつたのである。

予は已に聖靈によりて基督の活る交に入り且聖靈に満さるゝことは基督信徒の健全なる状態なることゝ、極めて冷淡にして世俗的信徒を其健全なる状態に回復するには「リバイバル」の必要あることゝ、かゝる「リバイバル」が屢々基督教會の凡ての時代を通じて起

りし事實につきて語つた、「リバイバル」に關する信仰は極めて根本的のものなるが故に我儕は眞正の「リバイバル」に必需なる條件に付て深く研究せねばならぬ、「リバイバル」即ち靈的活動状態は決して教會の不自然的状態に非ずして是實に教會の自然的状態である。我儕今直接「リバイバル」の條件に論及するにあたり、左の六點を看過してはならぬとおもふ。

(一) 先づ聖靈の實在に其働を信ぜよ、神なる活る基督が聖靈によりて基督信徒に圓滿にして活る關係に入り、我儕に満ち、我儕の中に働さ、我儕を用ゐて其御用を務めさせ給ふについては聖靈の實在に其働を信ぜねばならぬ、予は未だ曾て「ユニテリアン」教會に

信仰の復興ありしを聞かない、一世紀前に述たる一大「リバイバル」が合衆國の歴史を一變せしごき名義に於ては然らざるも實際上「ユニテリアン」に屬せしポストン及び其の附近の教會は「リバイバル」を歓迎しなかつた、彼等は之を輕じ聖靈の感化を侮つておつた、當時ポストン市中「リバイバル」を歓迎し神なるキリストを信ぜし教會は唯一のみであつた、市中にある諸教會の信徒にして神なる基督に人格的聖靈を信じ「リバイバル」を歓迎せし信徒は舊教會を脱し新教會を結び禮拜堂を建築した、然るに今日は組合教會のみにてはポストン市中に廿五、マサチューセツト洲に六百以上、合衆國中には殆んど六千を以て數ふるに至つた、而して若神なる基督を信じ

「リバイバル」に同情を有する信徒を以て組織せる合衆國內の諸教會を數へたらんには恐らく一萬以上に達すべきに現在合衆國中にある「ユニテリアン」教會の數は僅かに三百に過ぎない。

(二)「リバイバル」を信ぜよ、「リバイバル」の事實「リバイバル」の好果「リバイバル」の勢力を信ぜよ、予は未だ曾て已に述べたる十萬有餘の教會中「リバイバル」を信ぜずして之に反對せる牧師と信徒を有する教會のたゞ一にも「リバイバル」の起りしところあるを聞かない。

(三)「リバイバル」の必要を感じぜよ、靈的生命を懇求むることが大切である、歴史あつてより「リバイバル」の必要を切に感じて之を

懇求めざる個人、教會、及び國民にかゝる靈的恩恵を受し者あるを見ない。

(四)主に之を求めひたすら之が爲に祈れ、「リバイバル」の起つた事情と境遇は其趣を異にしておる、併し凡ての「リバイバル」を通じて確かに一致せる要點がある、「ペンテコステ」の「リバイバル」より廿世紀を風靡せし驚くべき「リバイバル」に至るまで基督教會歴史を通じて起來りし凡ての「リバイバル」は常に熱切なる祈禱の答へとして特に一致の祈禱の答へとして與へられたのである。「ペンテコステ」の「リバイバル」は百二十人の信徒が十日間心を協せて祈求めし其答であつた。

我儕は聖靈に用ゐられて五十萬人以上の悔改者を起せしナヤール  
 ス、ジーン、フリンニーの驚くべき傳記を讀む時に彼が如何に多くの時  
 間を祈禱の爲に費やせしかを想はざるを得ない、フリンニーは彼が  
 往く前に先づ敬虔の心に充てるフアザー、ナツシユを遣して祈禱を  
 以て其働の準備をなさしめた、ムーデーもまた同様であつた、ムー  
 デーは常に彼の働を願ふ所の諸教會が一致して彼を招くのみならず  
 彼の未だ往かざる先に數週間心と力を盡して神の恩恵を求むること  
 を以て自ら其地に應援するの條件としておつたのである。或時は大  
 『リバイバル』が唯一人の熱心なる祈禱によりて起ることもある、ム  
 ーデーが始めて英國に往き一夕ある小市街を説教した、其説教會の

終に全會衆は聖靈に感動し、出席せし者は殆んど皆基督信徒たるの  
 生涯を送らんとの決心を表白した、此事たるやあまり突然にして而  
 も一般なるゆるムーデーは其眞實なるや否やを恐れた、然るに彼は  
 間もなく一病婦人が數年以前ムーデーが米國に於てなしつゝある大  
 なる働をきき閉込られたる靜かなる密室に於て熱心に彼が一度此町  
 に来り神が彼を用ゐさせたまふ如く働かんことを願求めておつたこ  
 とを發見し、始めて其怪むに足らざることを悟つた。

昨年ニューヨーク市に於て有名なるフルトン街祈禱會の五十年紀  
 祝會が催された、一千八百五十七年實業界の大恐慌と宗教界の大衰  
 退の時にあたり市傳道者なる平信徒ゼー、シー、レムフ井ヤー氏は諸

教會に一片の警告書を送つて九月廿三日正午に實業家の爲に祈禱會をフルトン街に開くことを傳へた、レムフ井ヤー氏は同日正午唯一人で半時間は祈禱を捧げた、午後一時になつて六名の信徒が集つてきた、其人々は四教派に屬する者であつた、翌日祈禱會には二十名、其翌日には卅名、四日目には殆んど一百名の人々が出席した、是が五十年以上繼續せる連日正午祈禱會の嚆矢である、而して彼等は今もなほ驚く可き成功を以て個人悔改の爲に祈求ておる。

同種の連日正午祈禱會が間もなく他の處にも起り、一千八百五十八年の始めにはニューヨーク市のみにても廿五ヶ處に開かれるやうになつた、此種の集會は極めて迅速に東西南北の市町村に普及し一

千五百一マイルスの長距離にまで達した、祈禱の働は基督信徒に靈的生命をあたへ未信者を悔改めしむる最大の力である、其結果として一大「リバイバル」は全國に起り二年間繼續した、説教は稀であつた、其は主として平信徒の活動であつた、祈禱、証言、個人傳道は其特色であつた、五十萬以上の人々が悔改めて此「リバイバル」の間に教會に屬することゝなつた。

廿六年前京都の諸教會は冷淡にして不活動の状態に陥つておつた、我同志社の學生中にも基督の神性を疑ひ聖靈の御働を信ぜないものがあつた、一千八百八十三年初週祈禱會の間同志社の内外教師は青年學生信徒と共に每晚集つて靈の恵を受けんが爲に祈つた、此

連夜祈禱會は第二の週間も繼續した、しかし何の答もなかつた、然るに十人若くは十二人の學生はなほ其集會をつゞけ聖靈の降臨を求めた。

二月の始頃予は當時の状態を重荷の如く感じて學校の事情及び其要求を書翰に認め凡て之を讀む人々は「ペンテユステ」にありし如き聖靈の恩賜を同志社の上にあたへられんことを願つた、また同一の手紙四十通を書いて合衆國內の神學校及び基督教主義の諸學校に送つた、學校は三月の半頃まで一の變化もなかつた、祈禱の組は六人までに減じた、然るに三月十六日安息日の晩不可思議なる殆んど奇跡ともいふ可き靈力の波動が學校に打來つた、内外の教師は翌日に

至るまで其事を知らなかつた、寄宿舎にあつた一百五十の青年は殆んど皆徹夜した、各室にある學生は罪の痛切なる感に打たれて其赦を神に叫求めた、此罪の自覺は先づ信者の中に起り數日の後非常なる歡喜に滿され、彼等の或者は是まで眞に悔改めて居なかつたことを告白した、未信者も同様の經驗を得た、此が一週間以上繼續した、其時何も特別の説教はなかつた、内外の教師は力をこめて生徒が定刻に寢食することを勧めた、毎日の課業と復習は常の如くなされておつた、四五人を除くの外は全校の生徒悉く同一の實驗を得た、而して此靈力の波動は遠く他の地方にも及んだのである、四月の中頃發送せし書翰に對する返事が合衆國から到着した、其返書を見るこ

三月十二、十三、十四、十五、十六、十七日間、篤信の信徒所々に集り心を協せて同志社の上に十六日の晩に起りし如き「リバイバル」のあらんことを祈つたことが明かに知れた、ア、是單に偶然の出來事なるか、また神が眞に祈を聞きて其答をあたへたまひしによるか。「リバイバル」の歴史は一致の祈禱、特に或市町村の諸教會の連合祈禱が近年の最も力ある「リバイバル」を起す甚だ顯著なる現象であることを示しておる。

一千八百九十八年の秋よりシカゴにある三四百の基督信徒が六ヶ月間毎土曜日に一處に集り全世界の信仰復興の爲に祈つた、トロー博士は此目的にしたがつて、祈を共にした所の一人であつた、而

して彼は其一身を献じて此世界的運動の爲に働く人となつた、其後トロー、アレキサンダー兩氏は濠洲よりの招に應じて出發した、濠洲にある基督信徒の一團は共に集つて十一年間毎土曜日の晩に祈つて居た、トロー、アレキサンダー兩氏到着の前毎日メルボーン市に於て殆んど二千軒のうちで或時限の間家庭の祈禱會が開かれた、多數の熱心なる信徒が心を協せて靈の恵に沐浴せんが爲に祈續けた、一大靈化は果してメルボーン市に始り濠國全体に普及した、幾十萬の人々が悔改めて教會に屬することになつた。

此の如く、四年前ウエールズに起りし大「リバイバル」の前は「リバイバル」の大渴望があつた、而して連合祈禱會は開かれ大なる惠

を受る準備として三年間其祈を續けたのであつた、遂に一千九百三年八月全ウエールスより集合せし一大集會に於て、其人々は主に奉事へんが爲聖靈に滿されんとて最も熱心に祈願した、諸處の信徒團隊は「リバイバル」の爲に祈りて止まなかつた、翌年の始に惠は現はれた、而して二年間非常な力を以て繼續した、之が爲に七萬人が教會に加へられた。

過る二年間に合衆國の中部ウエスタン、ステート及び其他の所に於て前世紀中に起りし如き力ある「リバイバル」があつた、たとへばイリノイス洲のカレスバーク、デカター、ブリンストン、チレノス、ペンシルバニヤ洲のシヤロン、ニューカッスルに於て驚く可き聖靈

の降臨と其力があらはれ多數の悔改者を出した、此等の悔改者中には無學者労働者のみならず國會議員、辯護士、醫師及び實業家等もあつた、此等市町の人々は殆んど全体此「リバイバル」によりて一變し、彼等の酒店は閉鎖され其監獄署は殆んど空家となるに至つた。是等凡ての「リバイバル」は各市町の諸教會信徒の熱心にして活潑なる準備と一致の祈禱によつて起つたのである、或時は殆んど二の教會が其準備と祈禱の爲に一致した、而して教會の祈禱會に聲援する爲に多くの家々の祈禱會が開かれた、其祈禱會の盛なりしことは多くの場合に於て會堂の狹隘なる爲更に大なる臨時の集會場が建築せられた程であつた。



かゝる祈禱會を有功ならしむる爲に我儕は祈禱を信ぜねばならぬ、『祈禱は世界を動かす所の聖手を動かすものである』我儕は祈禱の中に、神の現在を確認せねばならぬ、彼にあひ、聖靈によりて祈り、聖靈また我儕にありて祈りたまふことを信ぜねばならぬ、是ぞ凡ての成功ある祈禱の秘訣である、馬太傳第十八章に主が其弟子等に向ひ「凡そ爾曹が地に於て繋ぐところは天に於てもつなぎ爾曹が地に於て釋くところは天に於ても釋くべし」と語りたまひし時「我また爾曹に告ん、もし爾曹のうち二人のもの地に於て心を合せ何事にても求めば天に在す我父は彼等の爲に之を成たまふべし」と告げ、なほ進んで「蓋はわが名の爲に二三人の集れる處には我も其中に在ばな

り」と宣ふた、基督に一致せる信徒が眞に彼の名を信じ聖靈によりて祈るときは其祈たるや神の聖旨に合ふが故に彼等は神より其答を得るのである、約翰傳第十五章七節に基督の御約束がある、「爾曹もし我に居りまた我いひし言なんちらに居ば凡て欲ふところ求に従ひて予へらるべし」また羅馬書第八章廿六節に「聖靈も亦われらの荏弱を助く、我儕は祈るべき所を知らされども聖靈みづから言がたきの慨歎を以て我儕の爲に祈りぬ」としるされてある、功力ある祈禱は活る基督に結付き聖靈によりて祈る其心にある。

此外「リバイバル」に對する必要の自覺之を得ねば止まないといふ精神の重荷を持つて、我儕の祈禱は一層熱心になつてくる、使

徒行傳十二章を見るに使徒ヤコブは殺されペテロは捕へられて獄屋に入られし時、教會は之が爲に懇切ら神に祈つた。茲に懇切に譯せられた原語「エクテチス」は甚だ強き意味の語にて信號があたへらるゝや否や直ちに馳場を走らんとする人が筋肉を引緊め片足を擧げて其體を前方にのばし全身全力をしめたる姿勢を顯はす文字である、また路加傳二十二章四十四節にゲッセマテの園に於て我儕の主が「痛く哀み切に祈れり其汗は血の滴の如く地に下たり」ごしるされたる所に同一の文字を用ゐらるゝ同じ熱心なる祈禱の例がある。我儕は神に向ひて徒に聖靈を注がれんことを祈るよりも寧ろより切に我儕の心を開きて此大なる恩恵を受けんが爲に祈るべき必要あり

るここを知らねばならぬ、我儕若し喜んでこれを受け之を其心に入らるゝことを願はゞ聖靈は何時にても我儕の心に入らんごて待たまふておるのである。

基督信徒は彼の水の缺乏の爲に渴死せんごして遠距離にある船に救助の信號をあげたる船員に似てはゐないか、信號の答あり曰く「掬めく汝は已にアマゾン大河の口にあり」と我儕は靈の恵の大洋に浮んでおるのである、神與へたまふや否は問題ではない唯問題は我儕能く心を開きて之を受るや否やにある、我儕をして受る心と與られん爲に祈らしめよ、我儕もし其必要を感じないなら我儕をして之を感じ得るやうに祈らしめよ、我儕の信仰もし弱ければ我儕をして

病を癒されん爲に其子をイエスのもこに連來り「主よ我信ず我が信なきを助けたまへ」と祈りし父の如く祈らしめよ。

『リバイバル』の必要を感じ心を合せて熱心に禱る時は、其人々の心に靈の力と信仰の復興を興へらるゝが故に、彼等は未だ信者とならざる人々の爲に祈り且働き彼等を基督に導き來りて救はるゝ者とならしむるや明かである、何時如何なる所にてても教會が活動の状態にあるあひだは其會員は聖靈に満され愛と祈の精神にみちて他人の爲に働き多くの人々を基督に導く筈である、若し一人の悔改者もなぐまた教會に加はる者少なくばそはたしかに其教會の冷淡にして復興の必要なることをあらはしておるのである。

(四) 此外なほ多少常に凡ての『リバイバル』に伴ふべき條件がある、實際『リバイバル』は時に熱心な個人の祈禱と個人傳道によりて起るものである、教會員の多數が聖靈に満され個人の爲に祈り且働く時多くの人々は其教會に加はつてくる、我儕は力を盡して我儕の祈に應ずる働を爲ねばならぬ、此個人傳道は常に成功するものである、然れども此働をなすには復活して生命にみちたる教會が之を實行せしめねばならぬ。

六十年前一青年ルイス、ハームス氏獨逸ハーマンズバルグの一教會の牧師となつた此教會は田舎の教會にて極めて冷淡不活潑のものであつた、然るに牧師は『モレビヤン』の人々に接して信仰と愛と

熱心さに満ちておつた。彼は神なる基督の福音と實在者なる聖靈を宣傳へた。教會は復活し來り八年の後に彼等は帆船を造り百人以上の會員を南亞弗利加の傳道事業の爲に遣すことになつた。此教會はまた直ちに印度に傳道の働を開始した。而して其教會にはホームズ牧師の死に至る迄廿五年間繼續せる『リバイバル』があつた。而して其間牧師は一萬の新會員を其教會に入れた。其働は成功して千八百九十八年の五十年紀念日までには亞弗利加及印度にて基督に信從せし者二萬四千人以上に達した。

七年前イリノイス洲にて三百名の會員を有する教會の牧師が熱心なる説教の後、今後個人傳道を實行せんとせられる人々はあこに殘る。ここを要求した。トコロが彼等のうち七十人程毎週三四時間を未信者を導く爲に祈禱を個人傳道の爲に捧げることを誓約した。其結果教會員は二年を経過せぬうちに三倍に増加した。新英國の他の牧師は一百名許の會員を有する教會に同様の勸をなした而して七十名程の未信者の姓名を讀んで會員は各自其うちの一人を受持ち、毎日の爲に祈り、他に二人の信者をも招きて共に其人の爲に祈り熱心に勸めて基督を受くるに至らしめた。斯て六ヶ月以内に六十名以上の人々が悔改して其教會の信者となつた。是また一種の『リバイバル』である。是等は皆生命ある活教會の當然の働である。

同じ光榮ある結果は二年以前北朝鮮の教會に現はれた。會員は凡

て平信徒の説教者であつた。彼等は其金を献じまた其時を献じて毎月多の日を個人傳道の爲に費やした。其結果として北朝鮮の町村は宣教師及び其他の教師が往て傳道し悔改者を訓練するよりもなほ速かに基督教化せられた。

(五)『リバイバル』に關する其他の條件は忠實に基督の福音を宣傳へるこゝである。かゝる説教は信者及び未信者の心に靈の覺醒と悔改をあたふる基礎を据るものである。神の愛、罪の恐るべきこと、キリストは神にして完全なる救主なること、一身をキリストに献ずること、萬人の爲に活る働をなすこと、此の如き問題と眞理は説教者の最大問題である。此福音の根本を離れたる説教は『リバイバル』

に對して甚だ不充分なる準備であるのみか反て其大なる妨害である。

(六) 尙通常教會を復活せしめ多數を導きて其身を基督に献ぜしむる聖靈の力ある働に前後する所の大切な條件は基督信徒の本心が覺醒して己が罪と其不信を懺悔することである。廿六年前に同志社に起りし『リバイバル』はこの種のものであつた。また朝鮮及滿洲に起りし力ある『リバイバル』も同一のものであつた。殆んど二年前に北海道十勝監獄になされし驚くべき働き即ち五百名許の最も悪しき囚人の心が融て救はれ爲に監獄の空氣を一變せし出來事の前に開かれた祈禱會もまた同じ有様の者であつた。予は諸君が『滿洲に於

ける恵の時』と題する小冊子を此種の好實例として讀まれることを望む、我儕は神容の我儕に内住するを妨ぐる一切の實物と彼を見るの目をくらくし彼に聞くの耳をにぶくする凡ての毒物を取除き我儕が他人に及ぼさんとする善良なる感化力を害せんとするものを悉く破棄せねばならぬ。

以上述來りし所は真正の『リバイバル』に必要な條件である、之を換言せば『リバイバル』は熱心にして健全なる活基督教である、聖靈にみたまされ、導かれ、用ゐらるゝ状態である、彼を信じ其必要を感じ、心を熱くして聖靈に満され用ゐらるゝことを懇求むる『リバイバル』に必需にして不易の條件である、此大なる恵を求

むるにたゞ自己を以て始むる時は必ず失敗に終るの外はない、我儕は先づ聖靈に満さるゝことゝ主の御用の爲に一身を獻ずることを求めねばならぬ、信徒は其有るものを用ゐて然る後により多くのものを神より受くる筈である。

銀五千を受たる者は之を用ゐて外に五千を得、銀二千を受たる者は之を用ゐて四千となせしが銀一千を受たる者は之を用ゐざりしが故に其有る所のものも取られ其上堪がたき悲嘆に入つた、生命ある教會は活動する教會である、活る教會は傳道教會である、基督信徒は聖靈の聲をきゝ其導に従ひ最も成功ある働人とならねばならぬ、昔のピリポの如く我儕は『往て其車に就け』この命令に喜んで服ぶ

べきものである。

而して我儕は説教又は個人傳道を以て人々を決心の谷に導き斷然  
基督に従ふ爲に援助を與へねばならぬ、我儕は皆時を利用する智慧  
き信徒でなくてはならぬ、時々我儕は感情的基督信徒、石地の聽衆  
となることはないか、我儕が要する所のものは凡ての人々をして基  
督に其身を獻じ、活る交に入り、聖靈に用ゐらるゝ者とならんが爲  
に基督に信從する大決心をなさしむることである、是即ち新生であ  
る、再生、新造の人である、神によりて生れし人である、「リバイバ  
ル」の時には教會が活ける靈的狀態にあるが故に人々をして此決心  
をなさしむる事の容易なるのみならず一度此決心をなしたる人々を

温かなる同情の空氣中にうけ入れ、一層活潑にして善き果を結ぶ基  
督信徒とならしむることも決して至難の事でない。

かくの如く新たに入來る信徒を訓練してよき働人となさしむる生  
命ある活動の教會こそ眞に「リバイバル」の重要なる條件の一であ  
る、冷淡なる形式一遍の不活動の教會に受入れられし新信徒は前に述  
し如く多分不結果に終り恐らくは完き信徒とならずして反て信仰の  
破船をなし、積極的妨害者となり福音の成功に大々的障害をあたふ  
る者となるやも知れない。

之を要するに信徒は一人も漏れなく己を基督に獻じ、活る基督を  
迎へ、聖靈に用ゐらるゝ者となる信仰を有することを自覺せよ、而

し、其生涯の最大目的は他の人々を基督に導くにある事をさしめよ。各自をして働かしめよ、各自をして我が爲教會の爲に「ペンテコステ」の聖靈降臨と靈的覺醒の必要を感じしめよ、各自をして毎朝其日の務を行ふ爲に先づ靈に充されしめよ、而して常に喜んで祈の中に他の人々と協同一致し以て此大なる惠の爲に働かしめよ、而して注意して新しき信者を保護教導し、彼等をして其心に神なる活る基督を迎へ同時に他の人々を助け導き救に至らしむる爲に働く者ごならしめよ、若教會全体が此活動状態にあらんか、「此世の國は速かに我儕の主耶蘇基督の國となる」に相違はない。

シヨージヤ洲アトランタのレン、ブロートン博士は昨夏ノースフ

井ールドの夏季學校に於て地下線によりて引かるゝ市街車の比喩話をせられた、車掌が其車の進行をゆるめ又は之を止めんと欲するときは地下に動きつゝある鐵線上の把持器を緩める鐵挺を壓のである、彼等はそれを(脱線)スキニンングワイヤトと呼んでおるブロートン博士曰くアトランタ教會に属する二千人の信徒中其多數はあはれ唯脱線のみなしつゝあるにあらずやと、若我日本全國の教役者と基督を信ずる我新教六萬の信徒が全く鐵線把持し我儕の接觸し得る靈的大生命力と結合し、之にみたされ、之に動かされ、之と共に活動せば我儕は此國民を動かすことを得るや疑ない。

此の如き一大覺醒、此の如き靈的生命は刻下我國の諸教會の第一



に要求する所のものではないか、予は信ず多數の敬虔に富める信者は此の如き覺醒の必要を感じ之が爲に祈りつゝあることを、主よ願くは其時を速かならしめたまへ、而して我儕をして悉く基督と偕に働く者となり内は教會の信仰復興と外は日本帝國の救を成就せしめよ。

# 信仰の復興終

明治四十二年六月五日印刷  
 明治四十二年六月十八日發行

述者 ゼー、デー、デピス

發行者 東京市京橋區尾張町二丁目十五番地 福永文之助

印刷者 横濱市太田町五丁目八十七番地 村岡平吉

發行所 東京市京橋區尾張町二丁目十五番地 警醒社書店

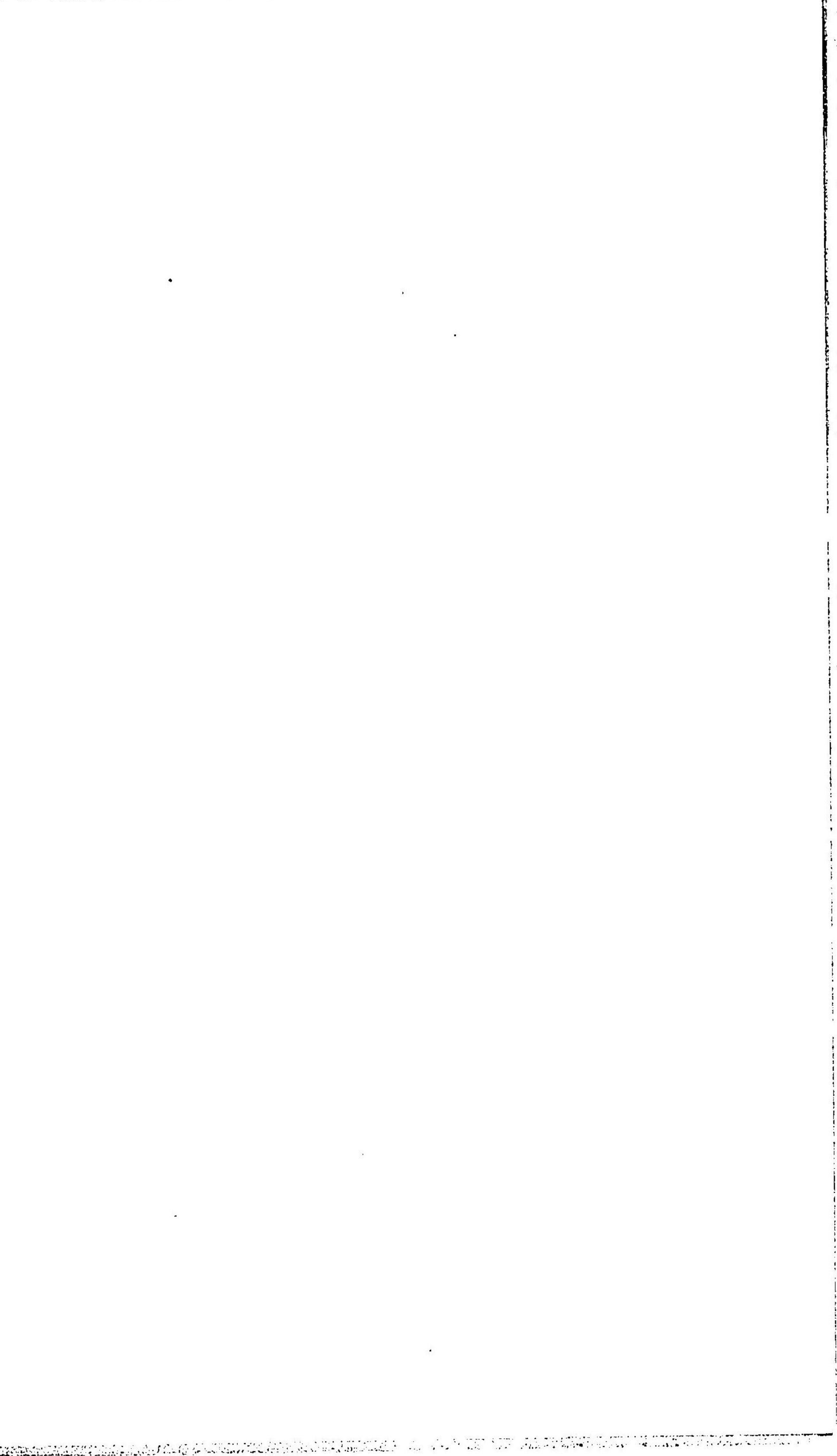
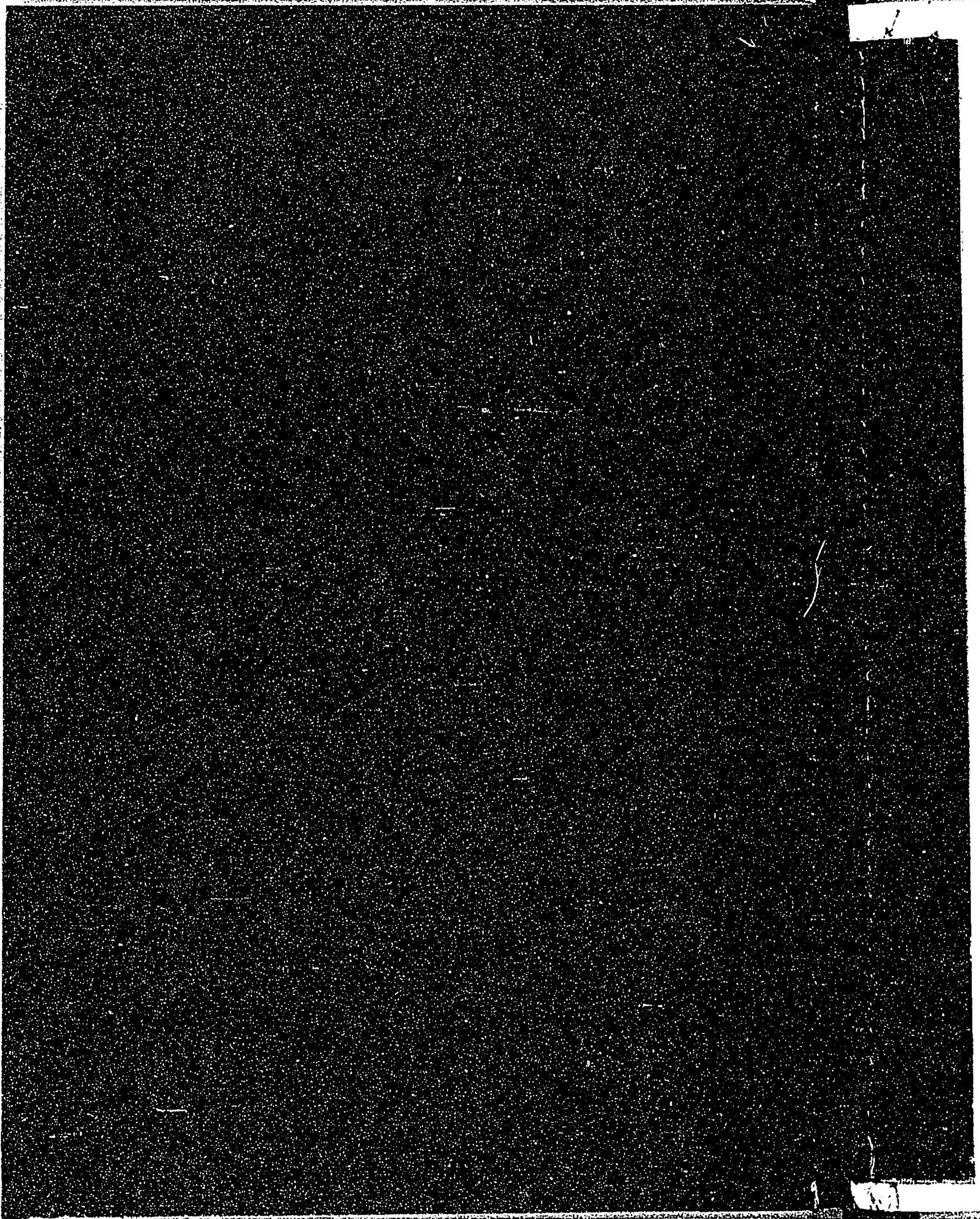
印刷所 横濱市山下町八十一番地 福音印刷合資會社



不許復製

●● 博士著書 スピデ ●●

▲神學之大原理	▲新島襄先生傳	▲基督教靈的活動	▲有益なる傳道	▲神の性格	▲進化新論	▲品格之建設	▲基督教倫理學綱要	▲基督教の根本問題
小定	小定	小定	小定	小定	小定	小定	小定	小定
包價	包價	包價	包價	包價	包價	包價	包價	包價
十一圓	十一圓	二十	二十	二二	二三	二二	二十	二五
二三十	二	五						
錢錢	錢圓	錢錢	錢錢	錢錢	錢錢	錢錢	錢錢	錢錢



1950  
1951  
1952  
1953  
1954  
1955  
1956  
1957  
1958  
1959  
1960

3  
信仰の復興

ゼー・デー・デビス

国立国会図書館

020797-000-5

特49-24

信仰の復興

ゼー・デー・デビス/著

M42

ABI-0623



特